

魅力を発信—私の町の美術館



- ・ 象徴的だ
- ・ 印象的だ
- ・ 奥深い

- ・ 目に焼き付く
- ・ 目を奪われる
- ・ 胸に迫る
- ・ 胸を打たれる
- ・ 心が温まる
- ・ 心に響く

- ・ 興味を引かれる
- ・ 見事だ
- ・ 魅力的だ

📖 感じたことを表す言葉

- ・ 音（会話） など
- ・ タッチ・匂い
- ・ 素材・色彩
- ・ 描かれているもの
- ・ 構図・配置

📖 美術作品を鑑賞する
ときの観点

2023年度AG+プロジェクト
イベント部会
中学校グループ

2024年1月7日

□ 参加校

【ドイツ】ケルン日本語補習授業校

【アメリカ】シカゴ日本語補習校（イリノイ州）

□ 対象者：中学1年、中学2年、中学3年

- ケルン日本語補習授業校 中学1年生 参加生徒数 5名
- シカゴ日本語学校補習校 中学2年生 参加生徒数 51名
- シカゴ日本語学校補習校 中学3年生 参加生徒数 21名

ロイベントの目的

- 自分たちの居住区や補習校のある国、地域の魅力をどうやって伝えられるかを工夫する。その過程において、自らの地域の魅力を再発見し、さらなる誇りを持つきっかけとする。
- 他の国や地域に対してリスペクトを持ちながら学習し、より深い興味、そして未知のものへの理解を深めていく。

□具体的な学習の取り組み

中学・国語での教育過程に沿って、以下の単元に取り組む。

➤ シカゴ補習校・中学2年の取り組み

❖ 「魅力を効果的に伝えよう」（書く） P184

❖ 「魅力的な提案をしよう」（話す） P54

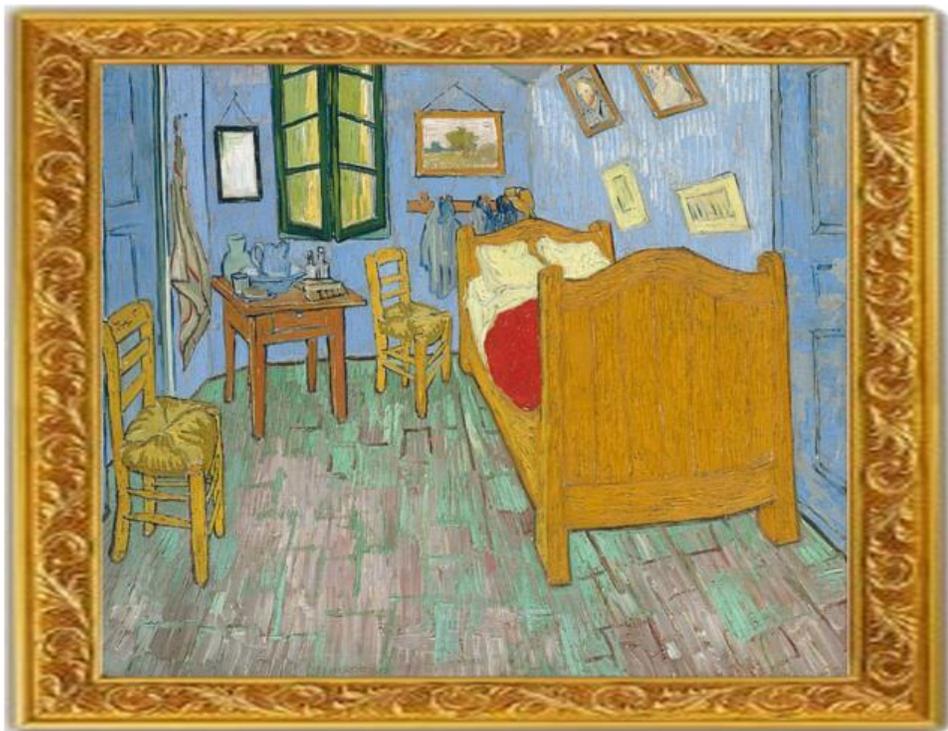
- 居住地にある美術館の絵画や美術作品を鑑賞し、その魅力を発信。
- 400字から800字で鑑賞文をまとめ、グーグルクラスルームに投稿。生徒間で鑑賞文を読み合い、プレゼンテーションを行う2名を各クラスから選出（全体でプレゼンテーションをする生徒は6名～8名）。
- シカゴ補習校で生徒によるプレゼンテーションを録画し、ケルン校に送る。
- ケルン校からプレゼンテーションに対する質問や感想などを受け取る。
- ケルン校の質問に対する返信をする。

イベントとして取り組んだ効用

- ❖ 作品への取り組み方の違い→他者に自分の考えを伝えることのおもしろさ
- ❖ 他者の作品を読むことの興味→審査員としての役割を楽しむ。責任感。
- ❖ 書き手を想像する面白さ
- ❖ 自分たち自身で選ぶ→満足感



生徒作品



作品名：ファン・ゴッホの寝室（ゴッホ）
作者名：ファン・ゴッホ
所属美術館：シカゴ美術館

「ファン・ゴッホの寝室」

私はゴッホの「寝室」という絵を選びました。その理由は、少し不思議な絵だと思ったからです。

まず、緑の窓が外側に開いたり閉じたりするのではなく、寝室の内側に向かって入っているように見えます。それから、壁に掛けられている絵は、傾いていて今にも落ちそうに見えます。さらに、部屋の奥には黒い額縁が付いた絵があり、その中には絵が描かれていません。

寝室の左側と右側に二つのドアがあります。通常、ベッドルームにはドアが一つだけのことが多いですが、この部屋には二つ描かれています。また、椅子は二脚あり、どちらもテーブルから少し離れたところに置かれています。一つはベッドに比較的近いので、だれかが病気のときにそばで別の人のお世話をしていたのでしょうか。そしてもう一つは左側のドアのすぐ前にあり、ドアが開かないように置かれているようにも見えます。この椅子に座っている人は、ドアの番もしていたのかもしれませんが。

さらに、部屋中に一つも影が描かれていないことに気が付きました。その代わりに寝室の床にはさまざまな色が使われています。年月が経って、青緑の床が色あせて薄い灰色になったように見えます。

不思議な「寝室」ですが、自分が部屋の真ん中に立っていると想像してみると、鳥のさえずりや、友達と遊んでいる子供たちの叫び声が聞こえてくる気がします。キッチンから朝食の匂いがしてきました。寝室を歩き回ると、木の椅子、枕、毛布の柔らかさに触れ、感じることもできます。ゆっくり足を踏み出したとき、体重で床が軋む音が聞こえてくるような気がしませんか。

□具体的な学習の取り組み

➤ケルン補習校・中学1年の取り組み

❖「聞き上手になろう」（話す）

- シカゴ補習校で生徒によるプレゼンテーションを視聴。
- プレゼンテーションに対する質問や感想などをシカゴ校へ送る。（文書）
- シカゴ校からの返信を受け取る（文書）

□具体的な学習の取り組み

➤シカゴ補習校・中学3年の取り組み（ライブでの参加）

❖「聞き上手になろう」（話す）

- シカゴ補習校中学2年生の発表者のスピーチを聞き、インタビュアーとして参加。その場で質疑応答を行う。
- クラス21人を2－3人のグループに分け、それぞれの発表者のインタビュアーとする。
- 中学3年生には事前に発表者の原稿を渡しておき、インタビューに備えさせる。
- 1コマ40分の授業を2コマ使用し、8人の発表と質疑応答をブレイクなしに録画する。時間があれば、シカゴ校の中3は録画を見直し、自分たちの“聞き上手になろう”の単元の学習を振り返る。

ロスケジュール

- 12月中ーシカゴ校中学2年の生徒は、発表する鑑賞文の作品を完成。生徒が全作品を読み、優秀作品を6～8作品選ぶ。
- 1月13日ーシカゴ校にて鑑賞文の発表を録画。各校へ送付。（録画は編集なし）
- 1月14日～1月31日ーケルン校にてインタビュー動画もしくは文書を作成。
- 2月3日ーケルン校からのインタビューに返信。
- 2月3日～17日ー今回のイベントに関して生徒からフィード・バックアンケートをとる。
- 2月17日～ーイベント部会部員、協力していただいた教員の皆様（自由参加）による評価反省会実施。

□今後の取り組み

- 生徒作品ライブラリー
- 講演（世界配信）
- 生徒自身によるイベントや大会開催のサポート（世界とつながる）